



平成23年度 留学生ホームステイ 思い出の文集

財団法人新潟市国際交流協会

日 程 表

☆7月23日（土曜日）

場所：クロスパルにいがた

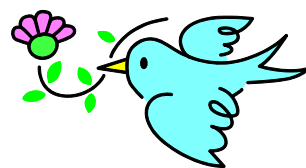
午後1時30分 対面式、諸連絡、記念撮影

午後2時 各ご家庭へ

☆7月24日（日曜日）

午後3時 各ご家庭にて解散

★18家庭24人の留学生で行いました。



五十嵐家で過ごした私のホームステイ体験

アンヘラ キス ペ サルセド
Angela Quispe Salcedo

23日土曜日、日本で初めてのホームステイを体験しました。このプログラムに私を参加させてくださり、日本の家族の一員となれる機会を与えてくださった方々に感謝の気持ちをあらわします。

五十嵐家の皆さんととても良い時間を過ごし、多くのことをしました。家族のことについて少し触れたいと思います。五十嵐さん家族はとても優しく楽しい方たちでした。お父さんはいつもとても元気でした。

初日の顔合わせに一番下の娘さんと一緒にクロスパルに来てくれて、最初に日本茶のお店に連れていってくれました。そこで美味しいお茶をいただきました。夕食用にも少し買って帰りました。お父さんは英語を少し話してくれました。私の日本語は上手ではありませんが、最善を尽くしました。お父さんと、私にとっても良くしてくれたトキコちゃんと一緒にたくさん練習しました。

私は子どもが好きなので、つたない日本語でしたが、彼女と話をして楽しかったです。彼女はダンスとおしゃべりが好きな11歳の女の子で、私たちはとても仲良しになりました。五十嵐さん宅では、お母さんが特別なお料理を作ってくださいました。私の大好きなエビの天ぷらをたくさんいただきました。何もかも美味しかったです。

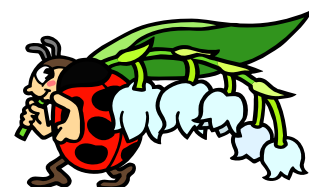
そしておばあちゃんにも会いました。おばあちゃんはとても物静かで、穏やかでした。いつも家のお手伝いをしていました。美味しい夕食の後には、それぞれの国の話をし、テレビを見ました。外が暗くなると、家の前で一緒に花火をしました。日本の花火で遊ぶのは初めてで、お父さんとトキコちゃんとたくさん笑って、楽しい時間を過ごしました。良い一日を過ごした後には、トキコちゃんと同じ部屋で休みました。私の漢字の勉強のために絵本と一緒に読みました。

二日目もとても楽しく、ホストファミリーは弥彦へ連れて行ってくれました。弥彦神社へ行き、和食を食べました。その後海にも行きました！私は海が大好きですが、今回は水着を持ってこなかったのが、田ノ浦海岸を歩き、景色を楽しみました。その午後、海岸近くのレストランで美味しいラーメンを食べたあと、家へ戻りました。

もう終わりに近づいた頃、出かけていた一番上の娘さんと対面しました。とても親切な良い子でした。一緒に写真を撮って、でも残念ながら帰る時間がきてしまい、家まで送ってくださいました。家族はとても優しくしてください、私が十分楽しめるようにしてくれたことをとても感謝しています。

「来年もおいで」と言ってくれたので、ホストファミリーに家族の一員としてまた会い、一緒に素敵な時を過ごせたらと思います。

この思い出は一生残るでしょう。



ウォン ムンコーン
黄 文勇

私は、マレーシアから来ました。新潟自動車学院の留学生です。

まず、新潟市国際交流協会にこのようなホームステイの機会を与えてくれて感謝します。一泊二日だけでしたが、日本人の優しさ、日本の文化、習慣にたくさんふれることができました。

私がお邪魔したのは、夫婦と子ども1人と可愛いわんちゃん1匹のお宅です。名前は五十嵐さんです。五十嵐さん家族はいろいろな観光名所に連れて行ってくれました。

1日目は、護国神社へお参りに行きました。境内で100円玉も拾いました。また、日本人の結婚式も見ることができました。五十嵐さんが「神社での結婚式は滅多に見れない」と言いました。ラッキーでした。その後、食材を買い家に行きました。ごちそうがたくさんあって、本当にうれしかったです。日本とマレーシアの事を話したり、日本の文化、習慣もいろいろ覚えました。

翌日は、私が自動車に興味があるのを知って、友人の自動車修理工場に連れて行ってくれました。日本とマレーシアの自動車修理の違いも分かりました。

もっとも印象に残ったのは、新潟で有名な大凧歴史博物館に行ったことです。そこで2005年、日本がマレーシアで大凧交流の写真や品物が展示してありました。また博物館の方がとても優しく、実際に大凧を揚げることもできました。凧は私、五十嵐さんと五十嵐さんの息子の身長よりも高く、こんな凧を揚げるのが、初めてで、びっくりしました。しかも無料で体験させてもらったので、一生忘れない思い出になりました。今回のホームステイは初めて尽くしでした。たくさんの思い出をくださった五十嵐さん家族3人に本当に感謝しています。お世話になりました。

私にとって、この幸運な旅は日本人のやさしさと親切さを深く感じることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。



「留学生のためのホームステイ」の感想文

ヴー レ トゥー
VU LE THU

ホームステイに参加してから約1ヶ月に経ちました。因さんの家に泊まったのは、一日だけでしたが、今も、これからも、その気持ちは一生忘れません。

初めに、クロスバスにいがたで会い、緊張して、失礼をしてしまうかなと考えました。小さい子どもと遊んだことは、はじめてではないですが、1日中ならどうでしょうといういろいろ心配しました。

車に乗ると、因さんの子どもたちは恥ずかしがって、まだ慣れないからあまり話しませんでした。しかし、子どもたちは家に着くと少しずついたずらに戻りました。純花ちゃんすみかと清花ちゃんきよかと因さんとお茶を飲みながら話す慣れて、心配はついになくなりました。

次に、純花ちゃんの幼稚園に行きました。私が挨拶をしたら、子どもたちも順番に挨拶してくれました。その後、みんなは私を連れて、「これは高野さんの布団」、「それは私の所」…と幼稚園を案内してくれました。私は、子どもたちと話したり、本を読んだりすることが嬉しくてたまりませんでした。

その後、公園で遊び、因さんの隣の人にも挨拶しました。

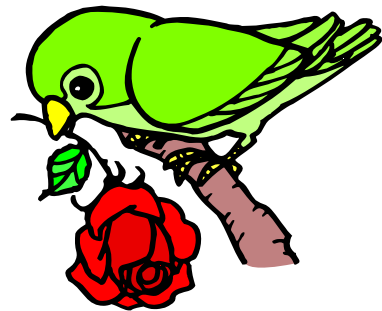
夕食は、お祖父さん、お祖母さんもきて、大家族で食事をしながら、いろいろ話しました。料理も美味しいし、皆も優しくしてくれて本当に嬉しかった。純花ちゃんたちもすてきな歌を歌いながら踊ってくれて、その雰囲気は自分の家族だと思いました。

翌日、皆と浴衣を着て北方文化博物館を見に行きました。すてきな所で、好きな人と行くのは最高でしたね。あちこち見に行き、説明し、写真もたくさん撮ってもらいました。ビックリしたのは、昼食のそばを食べていた時、3歳の純花ちゃんが「すき」と紙に書いて、私に渡しながら、「秋ちゃん、好き」と言ってくれました。何の言葉も表せない気持ちでした。

最後、帰る前に、皆と一緒にとても美味しいスイカを食べました。純花ちゃん、清花ちゃんの食べる姿も忘れません。因さんはすてきなCDを作ってくれました。

ホームステイに参加して、1日半だけでしたが、因さんの家族と会えたのは私の幸運だと思っています。本当に有難うございます。

また参加できるのを楽しみにしています。



ヒョウ ソウエイ
馮 双影

新潟大学の交換留学生の馮双影と申します。日本に着てもう十ヶ月です。私の留学生活もそろそろ終わります。今回、日本のパパ、ママと出会って本当によかったです。

7月23日の午後、パパとお姉さんと妹さんは私とモモをむかえてくれました。みんなはとても親切です。ホームステイの対面式が終わったら、私たちは、入船みなとタワーに行きました。タワーの上から見た海はとてもきれいです。その後、私たちはパパの家に帰りました。そこでママと会いました。ママはとても元気です。パパママの家は暖かくてきれいです。私の国の家に戻ったようです。

私たちはしゃべったり、遊んだりとても面白かったです。夕ご飯は美味しかったです。一番印象深いことは夕ご飯のあとの花火です。花火は日本の夏の祭の中に非常に必要なものです。浴衣を着て、犬と遊んで、花火を見て楽しかったです。

次の日、私たちは魚の市場に行って、そこでいろいろな種類の魚を見て勉強になりました。新鮮な海産物も食べました。その後、弥彦山に行きました。弥彦神社では、いろいろなことを神様に祈りました。そして、私たちは角田岬灯台に行きました。海は底が見えるくらいキレイで、カニがたくさんいました。

時間が経つのは早いものです。そろそろ別れの時間です。この二日間は本当に楽しかったです。日本に来て今まで体験しなかったことをやりました。この二日間は私にとっては大切なものです。

一生忘れない思い出です。「みんな、ありがとう。」



オウ ショウキ
王 召弁

To:みなさん

もう九月です。なつやすみもおわりました！かぞくのみんな元気ですか。2日間、本当にたのしかったです。

もうすぐ秋ですね。すずしくなりました！りこちゃんとはやてとたい元気？パパとママ元気ですか？

ホームステイとてもたのしかったです。ありがとうございます！

いまま日本語の勉強をします。難しいから、いまもへたです。かきかたはいちばんの問題。だから正しくないことばもあります。すみません。

いつもの笑顔で待っています。いろいろお世話になりました。ありがとうございました！



日本の「粋」家族の「情」

呉楠（ウナツ）

日本の「粋」というのは、花火をやった時、お母さんから教えていただいた言葉です。

2011年7月23日と24日に、新潟市国際交流協会が主催したホームステイに参加しました。ホストファミリーの鈴木様ご家族と一緒に、一泊二日を過ごし、新潟に親戚ができたようで、本当に幸せです。

私は、新潟大学大学院建築学専攻の修士2年、中国からの留学生です。2009年10月に新潟に来てからそろそろ2年になります。

今回は初めてのホームステイですが、事前にお母さんと電話で話しましたが、対面式の時、少し緊張していました。しかし、優しいお父さんとお母さんと顔を合わせてから、その緊張感はすぐ消えました。その後、お父さんとお母さんと一緒に「今代司酒造」へ酒蔵見学にいきました。蔵人から今代司酒造の日本酒が出来るまでの酒造工程や酒蔵に関する話をしていただき、麹室などの現場を見学しました。最後は日本酒の試飲が出来、いっぱい飲みました！「純米大吟醸活性生原酒あらばしり」が一番おいしかったです。



酒蔵見学をしてから家に帰りました。家の扉に貼ってあった「歓迎呉楠さん」のメッセージを見た瞬間、心に溶けこみ、とても感動しました。家でおばあちゃんと末の息子さんに会って、いろいろ話しました。息子さんは私と同じ年で、ジェネレーションギャップも感じません。また、おばあちゃんから手作りの布ぞうりもいただきました。ご飯はおばあちゃんも一緒にお好み焼きを食べました。その後、近隣の子どもたちと一緒に花火をしました。初めて浴衣を着た私は、お母さんに「これは日本の粋」と言われました。その時の私はまだ「粋」の意味がわかりませんでした。子どもの楽しんでいる笑顔を見てなんとなくわかってきました。

24日、北方文化博物館（農家）と旧小澤家住宅（町屋）を見学しました。新潟の2つの伝統的な建物の見学を用意していただきました。大学院の研究室で新潟の集落と町屋に関する調査も行っていますので、今回は農家と町屋の基本的あり方を再認識する良い機会だったと思いました。建築を学んでいる私にとって、とても役に立ちました。お父さんとお母さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

一泊二日のホームステイは短かったです。美しい日本の粋、また家族の情を十分感じられ、留学生の私にとって本当に意義深く忘れがたいものだったと思います。

いま微妙な日中関係の中で、国家利益のために政府もメディアも一方に偏った情報しか伝えてませんが、もしこのように市民レベルの草の根交流で少しでも変わっていけば幸いです。本当にありがとうございました！またお会いしましょう。

「最高の思い出」

カク イレイ
郭 井聯

今日は8月1日、ホームステイから1週間が経ちました。感想文を書こうとずっと思っていたのですが、なかなか書く時間もなく、書く気分もないまま、今日になってしまいました。実は先週の木曜日にホームステイ先のお母さんから手紙をいただきました。その日は、学校から帰る途中、大雨が降って来て、傘を持っていなかったため、びしょ濡れで気分も最悪でした。家に帰ると、ルームメイトがホームステイ先のお母さんからの手紙を渡してくれました。急いで開封し、一気に読み、しばらく、楽しい思い出に浸っていました。おしゃべりしたこと、食事をしたこと、ゲームで遊んだことなど目の前に浮かんで、気持ちもだいぶ晴れました。

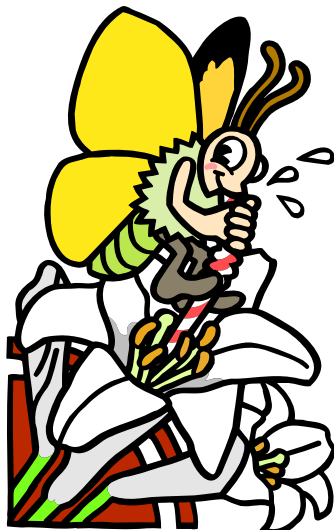
外の雨を眺めながら、一人で見知らぬ国に来て、1年半が過ぎ、家族に会いたくて、時々孤独感と無力感を覚えます。一人の男とは言え、やっぱり家は恋しいです。

思えば中学校の時、学校以外はほとんど家にいました。しかし、高校はバスで2時間かかるところだったので、週末しか家に帰れません。大学はさらに遠い中国最北にある黒竜江省のため、家に帰るのは夏休みと冬休みの2回だけでした。そんなある日、突然留学したいと思い、父母の同意を得て、そのまま日本の土を踏みました。家に帰るのがさらに難しくなりました。家がどんどん遠くなるにつれ、夢に向かって走っている私を応援してくれる人もだんだん少なくなったと思うようになりました。特に日本に来て、多くの中国人は自分の事、自分の生活が精一杯で、これも仕方のないことだと分かっているつもりでしたが…。

しかし、今回のホームステイに参加してから、私一人ではない、応援してくれるそして、愛せることのできる日本の家族ができました。もっともっと夢に向かって頑張りたいという思いがさらに強くなりました。

待っていてください！絶対失望させません。愛しています！日本の家族と中国の家族。これからも頑張ります。

同時にこのような活動を企画して下さった（財）新潟市国際交流協会に感謝します。謝謝！！



ファン ショウイ
黄 昇偉 (Huang Sheng-Wei)

「留学生のためのホームステイ」に参加できて、とてもうれしく思います。

今回は、鳥がさえずり、あたり一面緑の絨毯のようなのどかなところで一夜を過ごしました。ホストファミリーは小学生の男の子と女の子と夫婦で、皆さんはとてもいい人です。

初日、展望台に行き、港と新潟市街地を眺めることができました。天気がよかったので、遠方の新幹線や新潟市内のいろいろな建物も見れました。お昼を食べてから、家に行きました。途中、広大な田んぼがあって、空気も澄んで気持ちよかったです。田んぼの中に「頑張ろう！日本」の文字があって、日本は本当に愛国心の強い国だなと思いました。

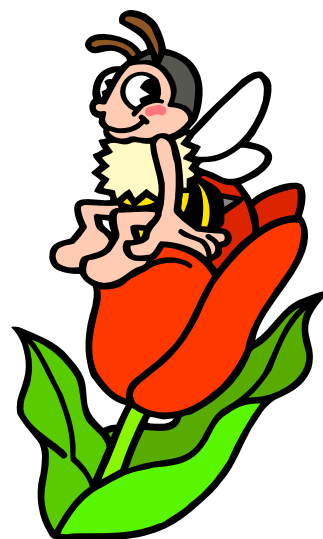
家に着いてから、本格的な日本料理をいただきました。お米は自家製で、本当においしかったです。その後、子どもたちと日本のゲームをしました。アルバムも見せていただきました。

二日目は弥彦山に行きました。初めてではないですが、いままで知らなかったことや地元の人しか分からないことなどたくさん教えてくれました。

最後、家まで送ってくれて、自家製のお米をお土産にいただきました。うれしかったです。

1泊2日という短いホームステイでしたが、日本人の心と考えを垣間見ることができました。もし可能であれば、これからも連絡を取り合っていきたいと思っています。

今度、台湾に来たら、ぜひ家に遊びにきてください。



五十嵐 玲子

今回、初めてのホストファミリーをさせていただき、とても良い経験をしました。マレーシアから来ている留学生を受け入れるとの事が決まり、言葉は通じるのか？何処に連れて行ってあげたら喜んでもらえるか？何をごちそうしたら喜んで食べてくれるか？等々…いろいろと不安でした。

しかし、受け入れ説明会で、私の不安を「大丈夫！言葉の不安よりもとにかく、心からのもてなしが一番なんだよ！」と勇気づけて下さる方々に出逢えて、本当に心強く、ホームステイの日を迎えることが出来ました。ありがとうございました。

さて！ステイ当日、息子と一緒に迎えに行った時、車の中でマレーシア語であいさつだけでも出来るようにと練習したり、どんな人だろうと親子でドキドキしましたが、言葉をかわした時から日本語も上手で、とても人柄のいい好青年だったので、とても、安心しました。

それからは、あっという間に2日間が過ぎました。

日本の文化や新潟を紹介したくて、1日目は、護国神社（ちょうど、神前結婚式が見られました。）→海→ふるさと村（カニを買ってきました。）→地元のスーパー、2日目は、秋葉湖と周辺の森→近所の自動車整備工場見学（彼が勉強しているのに役立つと思い見学をお願いして見学しました。）→白根の凧会館（大きな凧もあげさせていただきました。）

つい、あそこも、ここも、見せてあげたく、いろいろなところを案内して少しハードスケジュールになってしまいました。

夜は、彼に甚平をプレゼントして着てもらい、とても似合っていました。

日本の国のこと、マレーシアのこと、将来の夢などとても楽しく夜中までおしゃべりしました。

今回、感じたことは、国同士の国際交流もとても大切ですが、個人レベルでの国際交流をすることで外国を身近に感じたりすることがとても大切だという事を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

マレーシアでお金をためて、日本語を勉強してから、日本に来て、アルバイトをしながら自分の夢をかなえる為に頑張っている姿は本当に感銘を受けました。

頑張れ！！ウォンくん！！私たち家族みんな応援しています。



因 麻衣

ホストファミリーは初めての経験で、少し心配はありましたが、外国の方と交流できるのを楽しみにしていました。我が家にはベトナムから来日された THU（トゥー）さんがいらっしゃるとの事、慌ててインターネットでベトナム語を調べたり図書館でベトナムの本を借りてきたりしました。

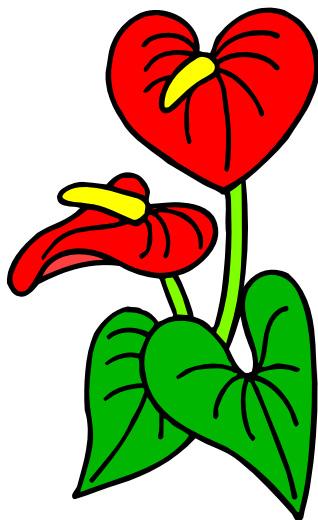
言い出しっぺは私でしたが、初日は夕方まで仕事。大丈夫かなと心配しながら家に着くと、すでにこども達はトゥーさんに懐いていて、一緒に自転車で遊んでもらっていました。「よろしくお願いします」と丁寧で流暢な日本語に、私の緊張も一気にほぐれていきました。お名前が「秋」の意味のようで、子ども達は「あきちゃん」と呼んでいました。

夕食は母が日本料理を用意してくれましたが、あきちゃんとキュウリを切ったり、サラダを一緒に作りました。とても良く気が付く方でどんどんお手伝いをしてくれます。箸を配ったり、皿を並べたり、ベトナムでは年少者が年長者におもてなしをするのが習慣との事で、祖母も母も「昔は日本もそうだったのにねえ」と話していたのが印象的でした。夕食後はベトナムの民族衣装アオザイを見せてくれました。実は私も着させてもらったのですが、あんまり体にぴったりするデザインで、裂けないかなとヒヤヒヤでした（笑）。

次の日はあきちゃんに浴衣を着てもらって近くの北方文化博物館に行き、昔ながらの日本家屋や道具など見ていただきました。別れ際は「Tam biet」と言って別れました。

短い時間でしたが楽しい時間を送ることができました。ベトナムのこともいろいろ教えてもらいました。特にこども達は「外国」というのを肌で感じたようです。

冬になったら雪合戦をやる約束をしました。また遊びに来てね、あきちゃん！



「りゅう学生がきて」

かしろ りこ（8才）

二十二日の夜、「明日はりゅう学生が来る。」ということを楽しみにしていてねむれませんでした。

そして、二十三日りゅう学生をむかえるときもドキドキしました。写真さつえいをするときにはもう友だちになったみたいでした。すべてがおわり、りゅう学生の王召弁ちゃんをつれておうちへ帰りました。

さいしょは、名前をいえませんでした。でも、召弁ちゃんがさきに名前をいってくれたのでゆうきを出して私も自分の名前をいえました。

次はおたがいでしつ問をしあいました。でもなかなかしつ問することができませんでした。それをママにいうとママがかわりにしつ問してくれました。

次は召弁ちゃんと私と兄と弟でかるたをしました。召弁ちゃんと私のとったまい数は、なん回もやっても同じまい数でした。ごはんを食べたあとは、花火をしました。

二日目はマリンピア日本海へ行きました。イルカショーを見たりヒトデにさわったりしました。とっても楽しかったです。その後はふるさと村へ行きました。ユーフォーキッチャーを召弁ちゃんがやると思っていたのになぜか召弁ちゃんが私にやらせてくれました。召弁ちゃんがほしいといていたのをとると見事とゲットしました。自分もまさか自分がとれるとはおもいませんでした。その後召弁ちゃんとさようならをするときがきました。それがとってもざんねんでした。

いい思い出になりました。ありがとうございました。また会いましょう。

我が家に来た召弁ちゃんは、子どもたちとすぐに仲良くなり、特に娘とは姉妹のように仲良しになっていました。初めての受入れでみんなドキドキ、ワクワクでしたが、この二日間は、私たち家族にとってとても良い経験&思い出になりました。

どうもありがとうございました。



「ホームステイを終えて」

小林 直子

対面式で初めて紹介された時、私と娘はおもわず顔を見合わせ「にやり」としたのです。

「うちにはピッタリかも」たぶん娘もそう思ったのでしょう。それまでは台湾人の女の子二人と決まっていたものの、一体どんな子たちなのか、そればかり考えていたからです。しかし、心配は無用でした。彼女たちは日本語が上手で娘と年が近い事もあり、K-POP の話題で盛り上がりたりして会話には困らず、まるで娘が友達を連れて来たのかと勘違いする程でした。

その日の夜は、親戚の子どもたちが来てくれて大勢で賑やかな夕食会となりました。もともと私たちの家は、賑やかで楽しい事が大好きで、大勢で集まることもありますが、彼女たちもそういった事は好きなようで、とても喜んでいました。

次の日は、近場を2～3ヶ所案内しましたが、楽しい時間はあっという間に過ぎてゆき別れの時間となりました。素直で明るい彼女たちは、何を食べても「オイシイ！」と言い、どこに案内しても「キレイ！ウレシイ！」と、喜び、別れの際には名残を惜しみ我家での生活を満喫して帰って行った様に思います。そんなふたりを見送った後の家の中は静かなものとなり、なんだか寂しい気持ちになりましたが、事故やケガなく元気で楽しい思い出と一緒にお返しできたことを心から良かったなあと、思っています。

イルちゃん、ウェンズちゃん、我が家に来てくれてありがとう。楽しい2日間でしたよ。台湾に帰っても時々日本のこと思い出してね。謝謝



「ホームステイの思い出」

佐藤 志麻

私たちの家には台湾からの留学生、安さんとナミさん（ニックネームです！）2人のかわいい女の子が来てくれました。2人とも日本語が上手で、会うとすぐにニックネームを教えてくれ積極的におしゃべりしてくれたので私たちも気兼ねすることなく何でも話しができて楽しい時間を過ごせました。

2人は日本に来た頃は、まだ上手く話せなかったと言ってましたが、一年も経たないうちにすっかり日常会話がスムーズにできるまでになっているのを見て、新潟に馴染んでくれているなあと嬉しく思いました。

家族みんなとっても楽しみにしていたので夫の両親と子ども2人と私たち夫婦それぞれ話したり遊んでもらったりしてるうちにあっという間に時間が来てしまってあまり出かけずに過ごしてしまいましたが、日本の家庭を味わって楽しんでもらえてたら嬉しいです。私たちも台湾の話色々聞いて今一番行ってみたい国になりました。

たった一泊二日の国際交流でしたが、こんなにコミュニケーションがとれ親しくなれて家族みんな大満足でした。次の約束をしてお別れしたので、安さんナミさんも楽しみにしていてほしいです。私たち家族と知り合ったことも日本での心に残る思い出になってくれたら幸いです。

澁谷明子

7月23日土曜日、私はドキドキしながらクロスパルにいがたを訪れました。「日本語が通じなかったら、どうしよう…」などたくさんの不安を胸に対面式に望みました。

ところが、我が家に来た留学生さんたちは、そんな不安を一気に吹き飛ばしてくれました。ヒマワリのような笑顔、流暢な日本語、赤ちゃん連れの私を気遣う優しさ…私は一瞬で彼女たちが好きになり、家族の一員として、家に連れて帰りました。

中国の一人っ子政策で、彼女たちには兄弟がいないそうで、我が家の4人の子どもたちをすごく羨ましがっていました。そして、真面目に「兄弟ケンカはどうやってするのですか？」と質問してきたのがとても面白く、印象的でした。

事前のオリエンテーションで「特別な事をする必要はなく、日本の普段の生活を見せてあげてください。」との話があったので、特に何も考えず、一緒に夕飯の買い物をしたり、料理をしたり、ゲームをしたり、普段通りに過ごしました。

次の日も、子どもたちと遊んでくれたり、我が家の生活に溶け込んだまま、別れの時間となってしまいました。

「またいつでもおいで!!」と声をかけ、彼女たちの住む小さなアパートまで送りしました。本当にいつでも会える気がしたからです。しかし、いつまでも私たちに手を振る彼女たちを見たら、すごく愛しく、「一泊だったけど、家族だったなあ」と感じました。

彼女たちは将来、外交官になりたいそうです。ぜひ日本と中国、そして世界のために頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございました！

「ホームステイ感想文」

渡辺 智子

以前から留学生の受け入れに関心を持っており、今年度初めて念願の体験をすることができました。子供が小さい上、アパートでのホームステイに不安がありましたが、結果としてその心配は無用であり、充実した時間を過ごすことができました。

留学生の^{エイエイ}莹莹さんは子どもにも私たちにも優しくあたたかく接してくれ、私たちも普段通りの素顔を見せられたように思います。その中で様々な事をお互いに話し合え、何気ない質問をかわし、お風呂や食事の小さな違いを楽しむ事ができました。

一番楽しかった事は、料理の好きな彼女がお国の料理を作ってくれた事でした。子どもたちも大喜びでお腹一杯、気持満足の夕食でした。

そして一番印象に残った事は、2日目にどこに行きたいかとあれこれ質問した時の事でした。「どこでもいいです。みんなと一緒にいられるなら場所は関係ない」と言った事でした。これがホームステイを希望する留学生のすべての人の気持ではないでしょうか。

今後、同じ経験をする時があったら、この事を忘れず生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

「中国人留学生呉君との小さな国際交流」

鈴木眞琴・千枝子

今回は初めてアジア圏の方、そして大人の方のホームステイを体験させていただき本当に貴重な経験となりました。我が家には中国人留学生の呉楠（ウー・ナン）さんが来てくれました。

説明会で彼の資料を頂き、名前を覚えるのに「ウッチャン・ナンチャンを思い出せば忘れないね」と冗談を言っていました。ご本人はウッチャン・ナンチャンどころか、日本語が上手で非常にまじめな好青年でした。新潟での暮らしも2年位との事で、どこへ行ったら良いか迷いましたが、大学での専攻が建築でしたので、初日は我が家への途中にある「今代司酒造」の酒蔵見学に行きました。

実は私たちも初めての見学で、面白かったのですが、呉さんも建物や酒作りの丁寧な説明に大変興味を持ち、最後は自由に「試飲」まで出来、満足されたようです。

第一日目の夕食は、お肉やシーフードのお好み焼き、焼きそば、サラダ、スイカで歓待しましたが全部平らげてくれ感謝感謝でした。好き嫌いもなく何でも食べてくれて嬉しく思いました。また彼もお父さんお母さんと呼んでくれ、子どもが1人増えたような気分です。夕食後「浴衣着る？」と尋ねると「着たいです！」とのこと。やはり台湾からの学生さんのステイを受け入れた近所のご家族のところへ、3人でお邪魔し、子どもたちと花火に興じました。浴衣姿の呉さん・・・『若旦那』みたいでとっても粋でしょう？

翌日は「北方文化博物館」と、最近一般公開となった「旧小澤邸」・・・と建物つながりの2日間でしたが、もともと呉さんの研究が日本の町屋とか集落で、さすが専門家！時間を掛けてじっくり細かなところまで観察して印象も良かったようで嬉しかったです。私たち自身も古い家や町並みを保存する大切さを再確認することができました。

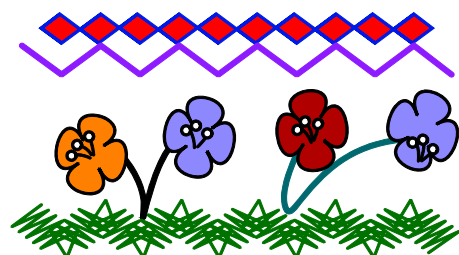
また、自宅ではグーグルアースを使って故郷の大連の町並みの説明や、中国と日本の暮らしぶり・・・お互いの国の子どもたちの勉強に対する姿勢の違い等を話したことにより、中国や日本の良いところ、そしてお互いに足りない点などが良く理解できました。

呉さんからは携帯電話のスマートフォンの便利さも教えてもらい、近々当家族はスマートフォンにする事になりそうです。

呉さんは新潟大学での勉強は来年3月までとなりますが、日本企業への就職も決まっており、又何かの機会に逢えると思います。もうしばらく新潟での滞在を楽しんでください。

中国の情報は毎日の様に入ってきますが、今回、中国の方の一泊二日のステイにより、いっそう身近な国となりました。このような小さな草の根国際交流の積み重ねが、国と国との相互理解に繋がる大きな国際交流になっていくことを願ってやみません。

今回は良い体験をさせていただきありがとうございました。謝謝您了 再見



「ホームステイを終えて」

田邊 浩美

我が家にやって来た留学生は、志の高い、笑顔の素敵な青年でした。日本語もとても上手で、中国のこと、日本のこと勉強のこと等たくさん話すことが出来ました。

初日の夜は、焼き肉を食べに行きましたが、つつい勧め過ぎて、後から息子に「郭君は気を使って無理して食べてたんだからね、気をつけてよ。」と言われ男の子だからたくさん食べると思い込んでいたので大反省でした。

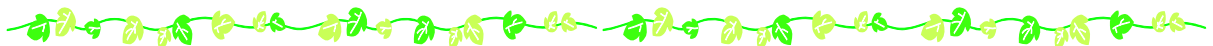
翌朝は、朝食に卵焼きを出したら、中国では甘い卵焼きは食べないそうで、またまた失敗…と、食に関しては次回へのリベンジを誓うこととなりました。(でも、一生懸命、笑顔で食べてくれて、本当に嬉しかったです。)

最終日は、自然科学館へ行きましたが、子どものように遊んでいる主人や息子や郭君を見ていると、遊びに国境はないのだなあと感じました。

ホームステイが終了して、短い時間でしたが郭君を通して、たくさんのことを学ばせていただきました。後日、ホームステイ中の写真を郭君に送ると拝啓、敬具等、日本式の手紙をいただき、読めなかったら悪いかな?と勝手に考えて、普段の話し言葉で手紙を出した自分を恥かしく思いました。

日本に来て、一人で日本語や日本での生活やマナーを学びに来ている郭君に、日本人として、もっともっと伝えられることがあったのではないか、その為には、自分自身ももっと日本のこと、新潟のことを知る必要があるのだなあと思い、今回の国際交流が本当に良い経験となりました。ありがとうございました。

「郭君、元気にしてるかな?また会おうね。」



「我が家の一員 スアンちゃん!!」

当銀 美香

説明会で、ベトナムの女の子が家に来るとわかって、すぐにベトナムに関する本を買い、ウキウキしながら我が家の勉強会がスタートしました。何処へ行こうか、何をするのか等計画を立てて、当日スアンちゃんに会えるのを楽しみにしていました。

スアンちゃんは、とっても笑顔のカワイイ女の子で、私とも歳が近かったため、話は弾み恋愛トークにまで発展し、ガールズトークで盛り上がりました。そして、娘の私でもやらない、料理の手伝いや後片付けも進んでやる、気の付く優しい女性だなあと思いました。一泊二日という短いホームステイでしたが、スアンちゃんはもう我が家の一員です。

ホームステイが終わった今でも、両親は「スアンちゃんどうしてるかな?」と言って、娘の私よりも気にしている位です。帰国までにたくさんの良い思い出を作ってくださいね。そして、ぜひまた我が家に遊びに来てね。

「待ってるよ、スアンちゃん。」

「陳さん、黄さん元気かな？」

柝倉 雅之・利枝・一輝・歩佳

我が家では、夏休み恒例となった「留学生のためのホームステイ」に、今年も参加させていただきました。今年、我が家に来てくれたのは、台湾の留学生の陳（チン）さんと黄（ファン）さん。

7月23日、クロスパルにいがたでの対面式を終え、朱鷺メッセの展望台を見学、新潟市を簡単に紹介しました。二人とも甘いものが好きだということで、市内の和菓子屋さんへ。甘さは物足りなかったようですが、おいしそうに団子を食べていました。その後、西蒲区にある我が家へ。夕食までの時間、近くの田んぼアートを見に行きました。夕食は、夏野菜中心の家庭料理を「おいしい、おいしい」と喜んで食べてくれました。夜は、子供たちと将棋やトランプをして遊んだり、台湾の紹介をしてくれたりと、二人がゆっくりする間も無く、一日目を過ごしました。

7月24日、午前中は、またまた子供たちと将棋やトランプをして遊んだり、色々な話しをしたりしながら、家でゆっくり過ごしました。午後からは、岩室の「いわむろや」で足湯をしたあと、弥彦駅、弥彦神社を散策しました。その後、寺泊を回り、途中、巻の鯛車焼きを食べながら、二人を西区のアパートへと送りました。陳さん、黄さんを迎えて、楽しい二日間を過ごすことができました、ありがとうございました。

「陳さん、黄さん、元気に日本の夏を過ごすことが出来たかな？体に気をつけて勉強を頑張って、自分の目標をかなえてね！家族みんなで、応援しているよ！！」

最後に、「留学生のためのホームステイ」の受け入れ家庭として、今年で4回目の参加となりました。当初は、子供たちが留学生と触れ合う機会をつくることで、外国語を習うことに興味を持ってくれることを期待して参加しました。しかし、私たち大人も留学生と触れ合うことで、国際交流の大切さを知り、自身が自分の住む新潟（日本）、日本語を勉強しなければならないと痛感しております。少しでも多くの留学生がホームステイを体験できるよう、今後も参加させていただきたいと思っております。

